

令和4年度 学校評価集計結果

教育目標	貢献 自立 ～ともに 地域・社会の未来を拓く～	経営方針	いのちをつなぐ環境、学びを生かす環境づくりを推進する
------	----------------------------	------	----------------------------

評価方法 【自己評価：職員】 4段階・割合(%) 【評価】 最終自己評価の肯定率(4+3の割合)

子ども達や職員は、4月に比べ高まっているか。
 4:大変高まっている 3:高まっている
 2:ほとんど変わらない 1:低下している

A ≥ 80
60 > C ≥ 40
80 > B ≥ 60
40 < D

① 4, 3, 2, 1で自己評価

経営の重点と中期経営目標 (3年)	短期経営目標 (1年)	評価指標 【目標達成のための方策】	評価指標		12月評価		2 自己評価		生徒 値	保護者 値
			指標	目標値	値	評価	結果と課題について			
(1) 生徒が安心できる居心地の良い「温かな学校」をつくります。	常に、生徒の安心と安全、人権を第一にした活動を行います。	・生徒の活動の見取りやアンケートの実施等によりいじめ未発見・未解決ゼロの継続	◇からかい、たたく、ネットでの中傷をしないさせない・許さない生徒	100	42	C	学年が上がるといって、いじめを許さないという毅然とした姿勢・意識を持つ生徒が多かった。2学期の段階でいじめ事例は7件あり、そのほとんどは悪口やからかいであった。	96	96	
	学びに向かう共感的な人間関係と潤いあふれる教育環境作りを努めます。	・学級経営案にもとづく学級でのルールづくりとリレーションづくり	◇学級生活に満足する生徒	90	69	B	QJアンケートによると、学級生活に満足している生徒は多いが、その一方で孤立気味な生徒も各クラス若干名存在する。個別の対応を引き続き行っていく。	93	97	
	一人一人の生徒を認め、生徒に寄り添った温かい生徒指導を推進します。	・解決志向型のアプローチにより、生徒一人一人の共感性を高める指導	◇教職員との信頼関係を構築する生徒	100	69	B	日頃の生活・授業態度や、生活記録ノート等で個々の生徒の様子把握に努めている。また、生徒に困り感がある場合は随時相談に乗るなど、安心・安全な学校生活を送れるようにしてきた。	91	94	
	特別支援教育を推進すると共に教育相談活動の充実を図ります。	・個に応じた特別支援教育(教育相談)の継続	◇自分の強みと弱みを自覚し、自分から仲間や教職員に相談できる生徒	95	58	C	悩みを自覚していても、なかなか相談できない生徒がいる。教育相談委員会等を通してそのような生徒の事前把握と早期対応に努めている。	81	75	
(2) たくましく活力にあふれ、「いのちをつなぐ生徒」を育成します。	自尊感情が高まり、明るい声が響き合う指導を継続します。	・朝のさわやか合唱と運動させた活動等で、生徒を認めたり、勇気づけたりする指導の継続	◇自分から進んで挨拶し、心を込めて校歌合唱と応援ができる生徒	90	26	D	日常の挨拶については、以前よりも大きな声で交わせるようになった。体育祭は応援合戦等で熱いをつけられたが、その後の新型コロナ感染拡大により、文化祭は中止となったことが残念である。	93	93	
	生徒会活動や行事での自発的な取り組みを通じ、感動体験を積ませます。	・主体的な生徒会活動の支援 ・生徒実行委員会形式による体育祭、文化祭の企画・運営を支援	◇主体的に生徒会活動や学校行事、学年行事に参画し、新たな自己発見に気づくことができる生徒	80	21	D	日常の委員会活動が軌道に乗っていない感がある。委員長がビジョンを描いて担当教員と相談し、企画内容を委員会と語り、それを生徒朝会や報告会の場で伝えることから始めるべきである。	91	92	
	防災教育やボランティア活動等で、思いやりの心を育みます。	・JRC加盟による「気づき、考え、実行する」態度の育成 ・全校生による防災訓練の実施	◇自他の生命を尊重し、学校内外でボランティア活動に「気づき、考え、実行する」生徒	80	47	C	「いのちの学習」を各学年で実施し、いのちの尊さや自他のいのちを大切にすることを学べた。来年度から「防災教育」については、キャリア学習と別に行う予定。	83	79	
	健康の保持増進に努め、体力と運動能力の向上を目指します。	・生徒会・PTA連携によるメディア依存改善とネットモラルの向上 ・生徒、保護者、関係団体等への部活動に係る活動方針の周知及び実行	◇ネットモラルと生徒会のルールを遵守し、家庭での生活リズムを安定させる生徒 ◇部活動で目標を持って活動ができる生徒	85	32 53	D C	1人一台PCになり、調べ学習やオンライン授業に対応できるよう毎日持ち帰りをしている。そのことを口実にゲームをしたり、チャットをしたりする生徒が若干名あり、その扱いに苦慮している。部活動の地域移行について、町教委と連携を図りながら進めていく。	91 92	76 94	
(3) 学習指導要領完全実施を踏まえ、「確かな学力」の向上を図ります。	目標を明確にした授業、まともな振り返りを大切に授業の実践に努めます。	・「中山スタンダード」(学習)の徹底 ・生徒の現状を把握し、生徒個々に応じた課題の整理と解決策の指導	◇その教科が好きだ、将来役に立つと感じる生徒	85	74	B	授業の冒頭に「本時で何を学ぶのか」を示し、生徒に見通しを持たせること、振り返りを行う「何ができたようになったのか」メタ認知を図ることにより、わかる・できるの好循環を生み出せるようにしている。	87	70	
	小中連携を柱に「自分の言葉で表現豊かに語れる生徒」の育成に努めます。	・授業等において「思考の素」を意識した発問や活動の継続	◇多様な情報から、自分なりの整合のとれた考えを持ち、文章や発語で表現できる生徒	85	63	B	「思い」を根拠を明確にして自分の言葉で伝えられる生徒が徐々に増えてきた。一方で、コロナ禍の状況により、小中連携の1つである中学校教諭の「出前授業」ができなかったことは残念。	85	79	
	各教科の見方・考え方を働かせて、主体的・対話的な学びを育みます。	・主体的・対話的で深い学びにふさわしい単元・題材の選定 ・校内授業研究会を核とするルーブリック評価の作成及び蓄積	◇課題に対して自分の考えや思いを持てる生徒 ◇学習交流後に再構築した自分の考えや思いが持てる生徒	85	79 63	B B	今年度の校内授業研究の柱として、各教科共通理解のもと「根拠を明確にして説明する力を高める」授業を目指して行ってきた。各教科とも教科の本質に迫る授業発表ができた。来年度の校内研究の持ち方をアドバイザーから指導いただき、積み上げた成果をさらに生かす。	92 94	80 88	
	基礎的読解力の向上と教科横断的な教育課程の検証を行います。	・論理的な思考を踏まえた授業改善、朝読書の充実等を踏まえた指導	◇図書館利用機会が増加し、読書が好きな生徒	85	16	D	自分が読みたい・手に取って読んでみたい本があまり整理されていない状況である。蔵書管理を計画的に新刊本を増やすこと、図書委員会とそれをどうアピールしていくかを考えさせる。	54	47	
(4) 「地域と共に歩む学校」づくりを目指します	地域の人や自然、社会の特性を活かした学校づくり、開かれた教育課程を進めます。	・地域と連動した防災教育やキャリア教育、合唱指導、いのちの講話等での外部講師の活用	◇新たな知の獲得に喜びを見出す生徒 ◇郷土中山町、中山中を愛する生徒	100	53 58	C C	教育課程に沿って、防災教育や臨場体験学習、合唱指導、いのちの講話等で地域の人材資源を今後も活用していきたい。魅力ある「中山町」にしていける提言を、キャリア学習と連動させて町取組にPRしていく。	88 94	81 87	
	「授業や行事等の公開」「学校だより」「ホームページ」等を通して学校の情報を積極的に発信していきます。	・個人情報保護を遵守した上で、各種たよりによる学校内での生徒の様子等の公開 ・実施したアンケートの結果公表	◇多様な情報から自分自身を客観的に認知することができる生徒	85	32	D	授業参観を再開したり、各種大会壮行式や学年合唱発表会の様子をオンライン・録画配信したりし、生徒の活躍や様子がわかるように努めた。また、学校だよりは月1回発行し、各家庭に配付した。HPの活用制限があるため、ICT支援員の協力を得ながら改善に努めたい。	85	79	
	学びの継承と横糸を紡ぎながら、教職員一人一人の公教育を担う使命感とゆとりを大切に、信頼される「チーム中山中」を目指します。	・「報告・連絡・相談」が機能し組織で対応する教職員団体の構築 ・教職員のゆとり創造	◇教員の働き方に魅力を感じる生徒	95	21	D	生徒数が年々減少しており、1クラスの生徒数が少ないと教員の配置も減るため、教員1人あたりの仕事量は年々増えている。教職員のゆとり創造に向けて仕事内容の精選を行い、元気のなる学校・働き甲斐のある学校づくりを目指したい。	-	-	

◆学校運営協議会委員の皆様より

- ・いじめ事案について、悪口やからかいであったとしても許されないという教職員の思いが十分に生徒や保護者に伝わらなかったのではないかな。
- ・ネットでの誹謗中傷にもスポットを当てている点が良い。
- ・未来塾で生徒が「担任の先生に悩みを聞いてもらいすっきりしました」と話してくれたことがあった。また学習の最後に振り返りカードを記入しているが、客観的に自分を見つめ、これからどうしていくかを考える前向きな姿勢が見られた。
- ・道路やごみ集積場で声をかけると生徒から挨拶が返ってくる。挨拶については、教職員はまだ不十分と捉えているということが生徒や保護者に伝わっていなかったのではないかな。
- ・コロナ禍で様々な制約を強いられた中でも、生徒は精一杯声を出して校歌を歌ったり体育祭の応援合戦で頑張ったという満足感・達成感を味わったのではないかな。
- ・学校行事や生徒会活動において、ここまで主体的に取り組んでほしいという教職員の思いが、生徒や保護者に十分に伝わらなかったのではないかな。
- ・「思いやり」は大切。生徒の評価が低いのはやはり改善の余地あり。
- ・いのちを大切にすることやボランティア活動の重要性は自明だが、「気づき、考え、実行する」行動への具体的な道筋を教職員が生徒に十分に伝えられていなかったのではないかな。
- ・家庭の様子が分かりにくい。ゲーム等に時間をさいている生徒がいる点は課題である。一見問題がないようにみえる生徒にも目配りが必要である。
- ・ネットモラルから逸脱した行為の危険性に気づかせる取組みが十分ではなかったのではないかな。
- ・地域における人材資源の活用の重要性に鑑みて、教職員が生徒・保護者とさらに一体なって取組みを進めるべきではなかったか。教育課程以外の場面で生徒と地域住民が交流する機会が少ないように感じた。